

第6学年国語科学習指導案

単元名 私たちの未来について討論しよう

教材名 『百年前の未来予測』(説明文) 横田 順彌 作 (東京書籍 小学校6年下)

1 単元について

(1) 児童観

児童はこれまでに、「イースター島にはなぜ森林がないのか」で説明文の学習を行っている。ここでは、形式段落ごとに要点をまとめる活動や、「序論」「本論」「結論」の3つに分け、文章の構成を考える活動を行っている。また、話す聞く学習では、「伝え合おう、私の意見」で、新聞記事から各々の関心のある記事を選び、それについて自分の意見を教室のみんなに伝える学習を行い、「事実・伝聞」と「感想・意見」に分けて話すことを学んできた。しかし、新聞記事の内容が十分にとらえられていなかったり、感想・意見に深まりが見られなかったりして、スピーチの際、聞き手に届けようという意識をもたずに話す児童もいると考えられる。

(2) 教材観

本単元では、教材文から読み取った文章構成を基に、自分たちも未来予測をし、討論会を開くという学習を行っていく。教材文は、百年前に未来予測された23の項目のほとんどが、現在実現していることやそれらが根拠をもって予測されたものであることが書かれている。筆者は、そのような事例を基に、利便性だけでなく問題点も考えながら未来を予測をしてみようと読み手に呼びかけている。身近な事柄が事例として挙げてあり、児童にとって興味深い作品である。本文中では、9つの項目が挙げられており、その中の4つの項目については、それぞれに「現在の様子」「当時の様子」をきちんと踏まえた上で「予測内容」が述べられている。また、利便性だけを追求した未来予測は、環境や身近な生活に深刻な問題が発生する可能性があることを訴えている。1つの項目についての「現在の様子」「当時の様子」「予測内容」から成る構成や、利点や問題点を踏まえた未来予測は、児童が自分の未来予測を書く時のよい文型として活用できる。

(3) 指導観

指導に当たっては、まず、文章の内容から筆者の考えを読みとった後、未来について自分の考えをまとめ、討論会を開くこと、そして50年後の予測記事をタイムカプセルに詰め込むことを伝え、関心・意欲をもたせる。本単元では言語活動としてパネルディスカッションを行うが、これは、第5学年及び第6学年「A話すこと・聞くこと」(2)ウに当たる。そこにつなげていくために、教材文中の9つの項目一つ一つを、「現在の様子」「当時の様子」「予測内容」の3つの観点から事実と意見・考えに分けてとらえながらノートにまとめていき、未来予測が根拠をもってなされていることに気付かせる。また、筆者が訴えている未来への問題も、自分たちが未来予測をする上で、考えなくてはならない内容だということも押さえなくてはならない。

未来予測を行う段階では、ニュースや新聞、インターネット、本又は雑誌、身近な人への取材など様々な手段を用いて調べ活動を行わせる。調べる分野を決定させる際は、ある程度選択肢を絞って児童に選ばせる。また、分野による人数の偏りにも配慮する。

よりよい討論会にするには、一人一人に「未来予測」「現在の様子(根拠)」「利点」「問題点」の4つのポイントを踏まえた自分の意見をしっかりもたせておく必要がある。また、お互いの意見の相違点や類似点を確認させた上で、だれが討論者としてふさわしいかを考えさ

せることが大切である。この時に、パネルディスカッションを活発にしていくための討論者を選ぶということを意識させるようにする。パネルディスカッションの準備を行う際には、討論者には参加者から出されるであろう質問とそれに対する答えもしっかりと考えさせる。司会者には進行表を持たせ、それを基に、計画的に話し合いを進めさせる。参加者には、友達がどの立場から話しているのかをしっかりと聞いたり、「利点・問題点」が根拠をもって述べられているかを考えながら聞いたりさせることで、自分の考えを深め、視野を広めさせていきたい。

予測文を作成する段階では、「百年前の未来予測」から読み取った予測する上での4つのポイントや表現の工夫を参考にさせる。その際、パネルディスカッションで学んだいろいろな考えや見方を取り入れて、より説得力のある予測文にさせるようにしたい。

2 単元の目標

事実や感想・意見などの関係に注意しながら文章の内容をとらえ、筆者の考えを読み取ることができる。

自分の考えをもち、相手の立場や意図をとらえながら話し合いをすることができる。

目的に応じて書く事柄を収集し、全体の構成を考えて自分の考えを明確にして文章を書くことができる。

3 単元の評価規準

ア 国語への 関心・意欲・態度	1 未来の生活について興味をもち、考えたり討論したりしようとしている。 2 未来の生活について、進んで調べようとしている。
イ 話す・聞く能力	1 自分の立場や意図を明確にして話したり、相手の立場を考えながら話を聞いたりすることができる。【A話すこと・聞くこと(1)オ】
ウ 書く能力	1 自分の予測について書く事柄を収集し、文章の構成や記述に役立つように整理することができる。【B書くこと(1)ア】 2 自分の考えが明確になるように、事実と意見を区別しながら記述の仕方に工夫して書くことができる。【B書くこと(1)ウ】
エ 読む能力	1 事実と感想・意見との関係に注意しながら、筆者の考えを読み取ることができる。【C読むこと(1)ウ】 2 目的に応じて、複数の本や文章を選んで比べながら読むことができる。【C読むこと(1)オ】
オ 言語についての 知識・理解・技能	1 文章構成を理解し、それを活用して書いたり話したりすることができる。【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ(※)】

4 指導と評価の計画(全11時間)

次	時間	学習活動	指導上の留意点	評価とその方法
—	1	自分たちの未来について想像したことを発表し合う。 教材文を通読し、感想を発表し合う。 単元全体の概略をつかみ、学習の見通しをもつ。	・自分たちで未来予測をし、パネルディスカッションを行うこと、自分の予測文をタイムカプセルに入れることを知らせる。 ・読むときの観点を与えて教材文を読ませ、心に残ったこと、筆者の主張をノートに書かせる。 ・全員でどのような活動が必要か	ア - 1 初発の感想を基にして学習への興味をもち、単元の見通しをもとうとしている。 〔ノートの記述〕

		意見を出させながら単元の見通しをもたせる。	
二	2	<p>教材文を通読し、おおまかな構成と本文の論の述べ方に気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを使って、これまでの学習を生かしながらおおまかな構成（3部構成）と事例について読み取らせる。 ・各項目の述べ方が「予測内容」「現在の様子」「当時の様子」になっていることに気付かせる。 	<p>エ - 1 教材文のおおまかな構成や未来予測の述べ方をとらえて読むことができる。</p> <p>〔ワークシートの記述及び発言〕</p>
	3	<p>紹介された未来予測記事の内容を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの項目ごとに「現在の様子」「予測内容」「当時の様子」が書かれていることに気付かせ、線を引いたりワークシートに書いたりしてまとめさせる。 	<p>エ - 1 未来予測に必要な論の述べ方や表現の工夫に気付くことができる。</p> <p>〔ワークシートの記述及び発言〕</p>
	4	<p>筆者の考え（要旨）を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形式段落10～13から、事実や事例と筆者の考えに注意しながら読ませ、要旨をとらえさせる。 ・段落の関係から筆者の伝えたいことの軽重を考えさせる。 	<p>エ - 1 事実や事例と筆者の考えを区別しながら要旨をとらえることができる。</p> <p>〔ワークシートの記述及び発言〕</p>
三	5	<p>自分が未来予測をする項目を決め、情報収集をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報収集に必要な4つのポイントを確認し、情報収集の方法を考えようで調べさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>[情報収集に必要な4つのポイント]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 予測 2. 根拠 3. 利点 4. 問題点 </div>	<p>ア - 2 自分の選択した項目について、意欲的に調べ学習を行っている。</p> <p>行動観察]</p> <p>ウ - 1 4つのポイントを踏まえ、必要な資料を取捨選択しながら探している。</p> <p>〔ワークシートの記述及び行動観察〕</p>
	6	<p>未来予測を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・付せんを使って調べた情報を選択させ、構成を考えさせる。 	<p>ウ - 1 4つのポイントを踏まえ構成を考えながらスピーチ原稿を書いている。</p> <p>〔ワークシートの記述〕</p>
	7	<p>パネルディスカッションを行うための役割や進行の仕方について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パネルディスカッションの役割や進め方について、教科書の挿絵や付属のCD、進行表を使ってイメージさせる。 ・グループ内で未来予測を発表させ、どの役割を行うのか話し合わせる。 	<p>イ - 1 パネルディスカッションのイメージを持ち、それぞれの役割について理解することができる。</p> <p>〔ワークシートの記述及び行動観察〕</p>
		<p>グループで、パネルディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内でお互いの予測を聞き合い、是非を問うのではなく 	<p>ア - 1 自分の役割について、積極的に討論会の準</p>

四	8	のための準備をする。	類似点や相違点を確認させる。 ・個別の練習とグループ内でのリハーサルを行わせて、活動への意欲を高める。	備に取り組んでいる。 〔行動観察〕
	9	パネルディスカッション（1時間目）を行う。	・自分が調べていない分野の話し合いでも、前日に予告をして自分なりの考えをもって臨ませる。 ・友達の意見をよく聞き、それを受けて自分の立場をはっきりさせながら話す事を確認する。	ア - 1 未来予測に関心を持ち、パネルディスカッションに積極的に参加することができる。 〔発言〕
本 時		パネルディスカッション（2時間目）を行う。 パネルディスカッションの進め方や留意点は1・2時間目共に同じ	・討論会がうまく進行していない場合は、軌道修正をしていく。 パネルディスカッションは、全グループが参加できるように、1時間ずつに分けて2回行う。	イ - 1 自分の立場を明確にして話したり、相手の立場を考えながら話を聞いたり質問したりすることができる。 〔発言〕
	五 11	説得力のある未来予測文に書きかえる。 単元全体を振り返る。	・パネルディスカッションを経て最初と考えが変わった点、深まった点などをまとめ、未来予測をさせる。 ・自他のよさや本学習で学んだことについて振り返らせ、今後の学習につなげるようにする。	ウ - 2 説得力のある文章になるよう、これまでの学習を生かしながら、自分の考えを伝える工夫をすることができる。 〔ワークシートの記述〕 ア - 1 教材文やパネルディスカッションでの意見交流を生かして、自分なりに未来を予測しようとしている 〔ワークシートの記述〕

5 本時の計画 (1 0 / 1 1) (9 / 1 1 も同じ計画)

(1) 目標

「予測」「現在の様子(根拠)」「利点」「問題点」の4つのポイントを踏まえて話し合いに参加することができる。

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点及び評価
<p>1 前時の学習を振り返り，本時の学習内容を知る。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p>	<p>パネル・ディスカッションの手順を確認する。</p>
<p>それぞれの役目を果たしてパネルディスカッションを成功させよう</p>	
<p>3 パネル・ディスカッションをする。</p> <p>(1) 討論者は，発表をする。</p> <p>(2) 司会者は，各討論者の発表内容を要約をする。</p> <p>(3) 討論者に対する質問と応答をする。</p> <p>(4) 参加者も加わっての全体討論をする。</p>	<p>話し合いがスムーズに進むよう，司会者には進行表を渡しておく。</p> <p>各討論者の予測内容の違いを考えながら聞かせる。</p> <p>司会者の要約で，補う点があれば補足説明をする。</p> <p>自分の立場をはっきりさせて，他の人の意見を受けながら話すようにさせる。</p> <p>友達の発表内容の素晴らしいところや上手な話し方など，気付いた事はメモをしてもいいことを伝える。</p> <p>・</p> <div data-bbox="775 1223 1366 1402" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価】 未来の生活に興味をもち，4つのポイントを踏まえてパネルディスカッションに参加している。〔発言及びワークシート〕</p> </div>
<p>4 パネル・ディスカッションを振り返る。</p> <p>(1) 振り返りカードを書く。</p> <p>(2) 発表をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・始めは と思っていたけど，さんの意見を聞いて・・・。 ・ さんの発表の仕方がよかったので・・・。 	<p>自分が一番納得できた予測を選び投票させる。</p> <p>友達のよいところを伝え合い，みんなで認め合える雰囲気を作る。</p> <p>友達の意見を聞いた後の，自分の考えの深まりや変化についても発表させる。</p>
<p>5 学習を振り返り，評価する。</p>	<p>次時は，タイムカプセルに入れる未来予測文を書くことを伝える。</p>